

IPM実践指標(露地なす)

管理項目	管理ポイント	点数	チェック欄		
			昨年の 実施状況	今年度の 実施目標	今年度の 実施状況
共通項目	圃場その周辺の管理	圃場周辺の雑草を除去し、病害虫雑草の圃場内への侵入を防止する。	1点		
	土づくり	完熟堆肥の施用や、緑肥作物のすきこみによる土づくりを行い、病気に掛かりにくい強健な作物栽培に心がける。	1点		
	適正な肥培管理	完熟堆肥の施用により、病気にかかりにくい強健な作物栽培に心がける。	1点		
	排水対策	排水が悪い圃場は暗渠排水の設置、通路や排水口を整備する等の改善を行う。	1点		
	健苗の導入	圃場へ病害虫を持ち込まないように、苗の状態を確認する。	1点		
	飛来性微小害虫の侵入防止	畝面をシルバーポリマルチで被覆する。	1点		
	発生予察情報等の活用	病害虫防除所の発生予察情報等を参考にするなど、病害虫の発生動向を注視し、防除計画を作成する。	1点		
		フェロモントラップ等を設置し、害虫の発生動向を把握することで防除の要否、施用時期の判断をする。	1点		
		近隣の作物や畦畔の雑草での病害虫の発生状況を確認し、圃場での発生を予測するなどの判断材料とする。	1点		
	作物の観察	病害虫の発生状況を観察し、発生初期に薬剤散布を行うなど効果的な防除を行う。また発生が極めて少ない場合は捕殺や抜き取りを行う。	1点		
	土着天敵の確認	化学農薬を使用する場合は、その使用前で最低1回はヒメハナカメムシ類、テントウムシ類、クモ等の当該地域に通常生息している天敵類の発生状況を確認する。	2点		
	土着天敵の温存、定着	ソルゴー、オクラなどのバンカープラントを作付けし、ヒメハナカメムシ類、テントウムシ類等の土着天敵の圃場での定着促進を行う。	2点		
	農薬の使用全般	十分な薬効が得られる範囲で最小の使用量となる最適な散布方法を検討した上で使用量・散布方法を決定する。	1点		
		定植時に粒剤を処理する等、栽培初期の薬剤防除を徹底する。	1点		
		天敵への影響の少ない選択性殺虫剤を利用する。	1点		
		病害虫の薬剤の感受性が低下しないように、薬剤をローテーション使用する。	1点		
		農薬散布を実施する場合には、適切な飛散防止措置を講じた上で使用する。	1点		
	作業日誌	病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のIPMIに係る栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。	1点		
	研修会等への参加	県や農業協同組合が開催するIPM研修会等に参加する。	1点		
個別項目	ミナミキイロアザミウマ	(害虫天敵の状況の確認)ミナミキイロアザミウマの発生、被害状況、ヒメハナカメムシ類の定着状況を継続的に確認を行う。	1点		
	青枯病	輪作体系確立、高畦栽培、抵抗性台木の導入。	1点		
	半身萎凋病	抵抗性台木の導入。	1点		
	うどんこ病	共通項目の励行(特に、換気に注意する。)	1点		

IPM実践指標(露地なす)

管理項目		管理ポイント	点数	チェック欄		
				昨年の 実施状況	今年度の 実施目標	今年度の 実施状況
個別 項目	褐色腐敗病	高畦栽培を行う。発生初期に予防殺菌剤を散布する。	1点			
	テントウムシダマシ	周辺雑草の除去により密度低減をはかる。	1点			
	ハダニ類	共通項目の励行(特に、早期に発見し、効果的な薬剤を散布する。)	1点			
	ハスモンヨトウ オオタバコガ	共通項目の励行(特に、若齢幼虫を早期に発見し、効果的な薬剤を散布する。)	1点			
		生物農薬(BT剤等)を利用する。	1点			
		黄色蛍光灯(7～10基／10a)を設置し、夜間飛来を低減させる。	1点			
	カスミカメムシ類	被害株を早期に発見し、効果的な薬剤を散布する。	1点			
	チャノホコリダニ	共通項目の励行(特に、被害株を早期に発見し、効果的な薬剤を散布する。)	1点			
			合計点数			
			対象IPM 計			
			評価結果			